

び、期待のまなざしを向けました。Bくんが食べさせる真似をする、Aくんは大きく口を開けて食べる真似をし、やりとりをしながら遊ぶようになりました。6歳になると、Bくんは食べ物の形をした物をフライパンに入れて動かし、フライパンから皿に移してAくんのところに持って行ったりと、料理をする真似をして遊ぶようになりました。Aくんは食べる真似だけを遊ぶことに飽き、不満そうな表情をするようになりました。Aくんも職員と一緒に食べ物の形をした物を乗せたフライパンを動かして料理をする真似をする、ちらちらとフライパンに視線を向けました。それを皿に移すときにはそこに集中し、うまく皿に乗ると満足げな表情になりました。誰にあげたいかと他児の名前を出して尋ねていくと、Bくんの名前で返事をしました。Bくんに作った物を渡してもなかなか食べる真似をしてくれない、その場から離れていってしまうと、とても不満そうな表情でBくんを見つめました。もう一度Bくんに渡すと、今度はいただきますと食べる真似をしました。それを見てAくんは、満足気な表情になりました。

福祉車両が寄贈されました

公益財団法人 オリックス宮内財団様より福祉車両(ハイエース)が寄贈され、3月2日に贈呈式が執り行われました。オリックス宮内財団様は全国の肢体不自由児施設に福祉車両の寄贈を継続されており、2017年度の寄贈施設としておおぞら療育センターが選定されました。

寄贈いただきました福祉車両は電動介護リフトが装備され、ストレッチャータイプの車椅子1台が余裕をもって乗せることができます。また、車椅子やストレッチャーの固定具が手動から電動になり固定力が増し利用しやすくなりました。

ご厚意に感謝し、末永く大切に活用させていただきます。



2017年度新入職員・異動者

新入職員

- ・3号館：齋藤クミ (看護師)
- ・リハビリ：石井美乃里 (作業療法士)
- ・ひかりの子：鈴木美香子 (生活支援員)
- ・ひかりの子：太田千鶴 (生活支援員)
- ・あおば：櫻木さやか (生活支援員)
- ・ほくと：船越将康 (生活支援員)

異動者

- ・1号館：氏原 僚 (看護師)
- ・3号館：松下由季 (看護師)
- ・1号館：牧田容子 (看護師)
- ・1号館：太田陽子 (看護師)
- ・2号館：廣瀬早紀 (看護師)
- ・1号館：鈴木冬子 (看護師)
- ・1号館：守田千純 (看護師)
- ・2号館：持山 舞 (看護師)
- ・3号館：白井由布 (看護師)



苦情解決委員会より (2017年10月～2017年12月)

受付日	苦情内容	回答日	苦情解決の結果
11/20	【おおぞらショートステイ】(ご家族より)3泊4日のショートステイの退所日に、顔に傷があるのを確認した。職員はいつ傷ができたかなど状況を把握していなかった。今後も利用を続けていきたいと思っているため、安心して利用できるように対策を考えてほしい。	12/12	受け入れ担当部署の看護課長と苦情受付担当者が、退所日当日の朝に傷が発見されていたこと、経管栄養チューブの固定テープの交換時に傷を付けた可能性があることを、ご家族にご説明しました。今後の対策をご説明するとともに、異常を見つけた際には必ず情報共有を行い原因の確認とご家族への報告を行うことをお伝えし、ご理解をいただきました。

	1月	2月
ショートステイ利用者数 (延べ利用日数)	70人 (391日)	72人 (401日)
放課後デイ利用者数 (延べ利用日数)	40人 (116日)	40人 (131日)
ボランティア参加人数 (グループ数)	13人 (3グループ)	8人 (1グループ)
実習者数 (グループ数)	14人 (1グループ)	15人 (2グループ)